

(様式第7号)

地域の課題解決のための活動報告

記入日：令和 2年6月 17日

作成者： 片山 徹

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

*この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名	
一般社団法人 芦屋写真協会	
事業名	日時(期間), 場所
芦屋写真展2019(全国公募展)第5回目	2019年6月5日~9日 兵庫県立美術館王子分館原田の森ギャラリー
内容(実績) *実施したことを具体的に	受益者数
<ul style="list-style-type: none">募集要項作成、配布(テーマ4分野、プロ・アマ問わず)HP、写真雑誌による告知、全国の主たるギャラリー資料持参・配布応募点数429点、入選以上点数250点(展示点数)他にPPVBからのゲスト作品15点、学生73点(大阪写真専門学校、神戸大学、関西学院大学)を展示1次審査3名の審査員、2次審査5名の審査員(内1名はパリより)展示会に備えて展示マニュアルを作成、役割分担を明確化イベント保険に加入、来場者の傷害事故に対応知名度が上がり全国各地から応募があった	(1444)人
	参加者数
	(247)人 内訳 応募者159名、学生・パリ参加者88名
成果(社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
<ul style="list-style-type: none">1930年設立された「アシヤカメラクラブ」から日本の写真芸術の先駆けとなった「写真の街・芦屋」を拠点都市として写真活動を通じて文化と社会の発展に参画できた。来場者に写真表現の素晴らしさを伝えることができた。また、大学専用ブースを設け、将来の写真家を目指す学生とコラボし、育成に努めた。パリの写真クラブ「PPVB」との友好関係の増進と若手のパリ進出の支援ができた。	
今後の展望(どのように継続, 発展するか)	
2020年度は新型コロナの影響で参加作品の一次審査のみとし、来年度に繰り延べとなったことは残念である。しかし、2020年2月にポーランドとルーマニアの写真クラブと各々「写真の友好の協定」を締結し、互いに展示会を開催し作品を交換することとなった。来年度のゲスト作品には従来のパリに加えポーランドとルーマニアも加わることで、より多くの海外の写真家の作品を紹介し、盛大に写真展を開催できるよう工夫する。	